

国内で活躍する職員



経済産業省
経済産業政策局
企業行動課 係長

井口 功

令和3年入庁

国税庁課税総括課、大宮税務署法人課税部門国税調査官、国税庁課税総括課軽減税率・インボイス制度対応室を経て、令和6年から現職。

企業行動の変容を目指して

私は、国税庁と向かいに位置する経済産業省で税制改正に関する業務に従事しています。

経済産業省で税に関連する業務を行うことに疑問を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、実は、税には国や地方公共団体が公共



国際課税制度の設計

財務省 主税局
参事官室 参事官付

野川 万柚梨

令和4年入庁

国税庁国際業務課、仙台北税務署法人課税部門国税調査官を経て、令和6年から現職。

私の現在の業務

私は現在、財務省主税局参事官室で国際課税関係の業務をしています。税制の円滑な執行を担う国税庁に対して、主税局は執行の基礎となる税制の設計を担う部署です。その中でも私は、「第2の柱」という、経済のデジタル化・グローバル化やビジネスにおける無形資産の重要

性の増大に伴って生じた「法人税引下げ競争」に歯止めをかけるとともに、企業間の公平な競争条件を確保することを目的とした制度に関する業務を担当しております。日本でも既に導入されていますが、制度の細かい部分の明確化がまだまだ必要で、日々、国際交渉のサポートをしています。

国税庁との違い

私は今入庁して3年目ですが、1年目は国税庁の国際業務課という部署にいました。1年目の時と今とで、国際会議に出て意見交換をするという業務内容自体は似ていますが、1年目の時の税制の執行に関する議論と、今の税制の設計を目的とした議論とは、思考プロセスが全く異なります。国税庁採用として制度の執行は念頭におきつつ、今は主税局の一員である以上、執行だけにとらわれずに、日本にとってベストな制度を追求しています。

出向の意義

国税庁に総合職として入ると、税を軸として、多種多様な経験ができます。「税」と一口に言っても、利害関係者が多い分、内容は様々で目つ複雑に絡み合っているため、勉強に終わりはありません。国税庁内での部署異動はもちろん、出向を通じて幅広い経験を積むことによって、点と点がつながり、税の全体像をより解像度の高いものにできると感じています。是非一度、国税庁の説明会に足を運んでいただき、税の奥深さとおもしろさを感じていただければ幸いです。



官邸と霞が関の架け橋

内閣官房 副長官補付
主査

松本 ありみ

令和3年入庁

国税庁国際業務課、財務省主税局調査課、浦和税務署個人課税部門国税調査官を経て、令和6年から現職。

内閣官房副長官補室 ～ミニ霞が関？～

現在、内閣官房副長官補室(補室)に出向しています。補室は、様々な省庁からの出向者で構成されている、いわば「ミニ霞が関」です。副長官補の下、出身省庁の垣根を越え一丸となり、内政上の重要課題の解決に向け取り組んでいます。

サービスを提供するために必要な資金を調達するという本来的な機能に加え、特定の行動に対して通常と異なる税の取扱いを定めることで、納税者の経済行動を望ましい方向に誘導し、政策目的の実現を図る機能もあります。

経済産業省では、企業行動の変容を促し政策目的の実現を図るため、経済産業省っぽく言えば、「未来に誇れる日本をつくる。」ため、あるべき税制を日々模索しています。

経済産業省の多岐にわたる業務の中で、私は中小企業の生産性向上や賃上げ、カーボンニュートラルに資する自動車の普及、日本企業の国際競争力の向上といった様々な政策目的を実現するために、最適な税制措置を講じることができるよう財務省・総務省との事務折衝や立法府のご理解を得るために日々奮闘しています。

国税庁総合職の魅力

他省庁の職員と同様に、国税庁総合職でも国税組織での勤務以外にも他省庁に出向する機会があります。ただし、他省庁の職員と明確に異なる点は、国税組織以外のどの組織で働いても「税」を軸とした業務に従事できることです。この点は、経済産業省に出向してから改めて国税庁総合職の魅力だと強く感じています。本寄稿をご覧の皆様と共に、総合職として幅広い業務に携わるジェネラリストでありながら、「税」という軸を持つスペシャリストとして働く日を心待ちにしています。

税制は国税庁や財務省だけでなく、様々な省庁の施策に影響を与えます。そのため、私は国税庁からの出向者として、内閣が重要視している税制上の施策が各省庁の取組みに与える影響や課題を、公平性の観点から確認する関係省庁会議の取りまとめ等を行っています。

また、税制以外にもGXのような世間的にも注目度が高く、その時々の方針を象徴する分野にも携わっています。官邸での会議の運営を行ったり、少数精鋭で案件に取り組んだりと忙しくもありますが、政策決定過程を目の当たりにできる醍醐味があり、時には近い年代の他省庁からの出向者と議論を交わしつつ充実した日々を過ごしています。

国税庁総合職として

国税庁総合職として働く魅力の1つは、税という独自の大きな軸がありながらも、多種多様なフィールドで活躍できることです。入庁以来、補室のみならず財務省主税局や税務署への出向の機会にも恵まれました。仕事は税務調査から税制の企画・立案まで多岐にわたりますが、いずれも税に関わるものであり、税に関する仕事の幅広さを感じます。

「日本の税務行政をより良いものに」私が入庁時に胸に抱いたこの思いは出向を通じて一層強くなり、使命感と責任感を抱くようになりました。出向先で様々なバックグラウンドを持つ方々と共に仕事をする中で、目標を実現するべく日々自らの視野を広げています。